

令和6年度 江戸川区立本一色小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○考える子 ○やさしい子 ○たくましい子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○基礎・基本の定着を確実にし、確かな学力を身に付けられる学校。 ○教師一人一人がやりがいを感し、情熱をもって教育活動を実践できる学校。 ○家庭・地域と協力し、心豊かな児童が育つ学校。 ○学校や地域の歴史、環境を大切に、故郷として誇りがもてる学校。	
前年度までの本校の現状	成果	○友だちの話を最後まで聞く児童が増えた。他者意識の姿勢が見られるようになった。 ○授業で考える場面を工夫することにより、思考力・表現力を伸ばした。		課題	○基礎・基本の確実な定着。 ○自分の考えを適切な言葉で話したり、相手の話を丁寧に聞いたりする姿勢をさらに身につけさせること。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施	・放課後補習教室への登録率100%	B	B	B	・登録率は70%である。10月からは1年生も登録するので、さらに補習教室の充実を図る。	B	・今後も個に応じた指導の充実をお願いしたい。	B	・登録率は70%である。10月からは1年生も参加している。学研ともよく情報交換できた。	B	・登録率が70%である理由を知りたい。	・登録率100%を目指し参加を呼び掛けている。
		・「本小スタンダード」の定着	・「本小スタンダード」が身につけている児童を90%以上にする	A	A	A	・「本小スタンダード」は80%の児童が身に付けている。	A	・子供たちに応じた学習指導をお願いしたい。	A	・「本小スタンダード」は85%の児童が身に付けている。	A	・ルールを守って学習できている。 ・意思をもって学習できるとよい。	・教職員の共通理解のもと、掲示物などを活用し、指導を徹底していく。
	○読書科の更なる充実	・図書館を使った調べる学習コンクールの取り組み	・応募率を3年生以上は100%、1、2年生は20%以上	B	B	B	・3年生以上の応募率は、90%、1、2年生は10%弱であった。	B	・活字を読む機会がなくなってきている。	B	・3年生以上の応募率は、90%、1、2年生は10%弱であった。読書科を通して豊かな心の育成や問題解決学習を推進した。司書と連携し学校図書館の環境整備を行った。	B	・今後も工夫を凝らした取り組みを工夫してほしい。	・学校図書館を利用した問題解決学習を計画的に実施する。 ・家庭へも図書館を使った調べる学習コンクールへの協力を呼びかける。
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・毎週、朝15分間の運動タイム実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が体力を高めようとしていると回答	A	A	A	・毎週運動タイムを継続している。85%の児童が体力を高めたいと回答している。	A	・85%の児童が体力を高めたいという意欲があることはよいことだと思う。	A	・85%の児童が体力を高めたいと回答している。毎週の運動タイムを継続し、楽しみながら体を動かすことができた。	A	・楽しみながら取り組むことが、体力向上につながっていると感じる。	・運動タイムを継続していく。 ・外部講師を招聘し、体力向上への技能と意欲を高める。
		・学期に1回のなわ跳び週間の設定	・児童アンケートの結果で、80%以上の児童が縄跳びに楽しく取り組むことができたことと回答	A	A	A	・なわ跳び週間を毎学期実施している。85%の児童が楽しく取り組むことができたことと回答している。	A	・縄跳びに全体で取り組むのはよい取り組みだと思う。	A	・なわ跳び週間を毎学期実施している。85%の児童が楽しく取り組むことができたことと回答した。	A	・今後も、子供たちがすすんで取り組めるよう励ましていけるとよい。	・なわ跳びの楽しさを実感できる学習過程を工夫する。
実現に向けた共生社会の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員や日本語教室との連携	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施	A	A	A	・毎月1回以上、打ち合わせを行い、児童についての情報交換を行い、指導に生かすようにしている。	A	・連携して指導に当たるのが大事なので続けてほしい。	A	・毎月1回以上、打ち合わせを行った。児童についての情報交換を行い、指導に生かすようにした。	A	・誰一人取り残さないような取り組みがなされている。	・個別支援計画を継続的に作成する。 ・特別支援研修会を実施する。
		○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルーム（ほっとルーム）の保護者への理解啓発	・年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルーム（ほっとルーム）を紹介	A	A	A	・保護者会や学校説明会で理解啓発を行った。今後も続けていく。	A	・ほっとルームが子供たちの居場所になっていることはよいことだと思う。	A	・保護者会等で理解啓発を行い、保護者の理解もすすんだ。	A	・個に応じた学習を行いやすい、環境が整えられている。
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期1回以上の実施	A	A	A	・鹿本学園との交流や副籍交流を各学期1回以上実施している。	A	・鹿本学園等に近く学校間の連携にとっても恵まれた環境にあると思う。	A	・鹿本学園との交流や副籍交流を各学期1回以上実施した。	A	・鹿本学園との交流や副籍交流は、学校外でも声をかけるなどにつながっている。今後も交流を継続してほしい。	・交流や副籍交流のほかにも、鹿本学園との作品交流なども計画的に続けていく。
不登校	○豊かな心の育成	・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実	・児童へのアンケート結果で、80%以上が係・当番活動をしっかりとやっていることと回答	B	B	B	・約70%がしっかりとできている。引き続き指導していく。	A	・みんなで協力してひとつのことをやり遂げてもらえると思う。	B	・約75%がしっかりとできている。お互いに協力することで豊かな育成につながっている。	B	・みんなで取り組める活動を、続けてほしい。	・一人一人に活動のめあてをもたせ、振り返りをさせる指導を行う。

・いじめ対応の充実	○hyper-QUの活用	・hyper-QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進	・児童アンケートの結果で、90%以上の児童が学校が楽しいと回答	A	A	A	・児童アンケートでは、95%の児童が、学校が楽しいと回答している。	A	・学校に来るのが楽しいことは何よりである、児童の授業へのモチベーションが下がらないように頑張ってもらいたい。	A	・児童アンケートでは、95%の児童が、学校が楽しいと回答した。自己申告面接時に、hyper-QUを活用して管理職も把握し、指導に生かした。	A	・学校に来れない子をつくらないことが大事だと思う。	・アンケート等を生かした学級経営を継続させる。
	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・不登校児童とのSC、SSW連携率100%	A	A	A	・SC、SSWとの連携率は、約80%である。今後も連携を強化していく。	A	・言葉にできない子もいると思う。じっくり話を聞いて、心の内を汲み取ってSSWの活用へつなげてほしい。SSWが心強い。	A	・SC、SSWとの連携率は、約90%である。かなり連携を強化することができた。	A	・学校にいろいろな人が関わることは、いいことだと思う。	・校内体制を整備し、SC、SSWとの連携を強化する。100%の連携率を目指す。
学校（園）の地域社会に開かれたの実現	○学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・こまめに更新タイムリーな情報を伝える	A	A	A	・ホームページはこまめに更新し、タイムリーな情報を伝えることができた。	A	・SNSについては子供のうちから教育していくことが大事だと思う。	A	・ホームページはこまめに更新し、タイムリーな情報を伝えることができた。	A	・SNSのトラブルについて、どのような問題があるのか。	・今後も保護者、地域に情報を発信し、学校の活動について理解していただく。
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・各学期に1回実施	A	A	A	・各学期にアンケートを実施し、改善に生かしている。	A	・公開などで子供たちの様子を知ることができた。	A	・各学期にアンケートを実施し、改善に生かすことができた。	A	・アンケートは今後も改善に生かしてもらえるといい。	・保護者アンケートをもとに、検討、改善を行う。
教育の特色ある展開	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・平均退勤時刻を19時までに収める	A	A	A	・月1回の定時退勤日を生かしている。平均退勤時刻を19時までに収めることができていく。	B	・19時以内でも遅いように感じる。	A	・月1回の定時退勤日を生かしている。平均退勤時刻を19時までに収めることができた。	A	・社会全体にもゆとりがないと、子供たちをゆっくりと見てあげられないと思う。	・会議の精選、校内支援スタッフの活用、作業の効率化等を図っていく。
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・全教員年3回の授業公開	A	A	A	・授業公開を2回実施済みである。	A	・忙しい中、熱心に取り組んでいる。	A	・全教員年3回の授業公開を実施した。	A	・授業がよく工夫されている。	・次年度も授業公開を実施する。 ・道徳授業地区公開講座の内容を充実させる。
	○異学年交流による思いやりの心の醸成	・異学年集団「あすなる班」活動を年10回以上実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上が人が困っているときは、すすんで助けていると回答	A	A	A	・あすなる活動は活動を工夫している。97%の児童が人が困っているときは、すすんで助けていると回答している。	A	・あすなる班活動の成果が出ている。	A	・あすなる活動の工夫を行った。97%の児童が人が困っているときは、すすんで助けていると回答している。	A	・様々な人に手を差し伸べることができる社会になるとよい。	・縦割りの班活動は、年10回以上実施し、活動内容を見直す。